



Title	都市社会学原理要約
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77336
Type	manuscript
Note	和文直筆、200字詰め20枚。; 資料作成年不明 (システムの制約のため、発行日には没年を入力した)
File Information	D001_03.pdf



[Instructions for use](#)

都市社会学原理 要約

著者は主として次の三つの点に主張して居る
本書の中で

一、都市は村落と同様に、人間の生活場（カ）のための

地域的社会的統一であるが、都市はその

内に社会的文化的交流の結節的機關を有

して居る点において、村落と異つて居る。

都市が村落と異るのは唯その点に在りてある

二、都市の社会構造における根幹をなす集團

は世帯と職域である。複雑な一部の都市

生活はこの二つの集團に根をおろして居

る。学校は職域の予備集團と考へる事が

出来る。都市生活を多量に的及び生活向上の爲なすしめ居る

各種の文化的娯樂的及び生活向上の爲教養同好者集團は何

れも余暇的集團であつて泡沫的な存在で

ある。私はこれを生活抗先集團と名づけ

て居る。かくの如き余暇集團の中に行政

機關の末端的機能を含む地区的集團があ

る。強力な密強りとした大きな組織をもつてので

強力な密強

あよから一類として考之地区集團と呼ぶ。

都市は以上五種の集團の累積的統一として考之る事か出来る。

三、都市の居民は其の且々々生活活動の中に規則的な行動を納束し現は可事によつて生活の秩序を保つて居る。かくの如き秩序は生活の空間的秩序と生活の時間的秩序として認められし。

生活の空間的秩序は都市内の販賣機關也

カーヒス、機園のインレドエリヤセサービス
 エリ中の上は、都市生活地帯として又都市利用圏として現われ
 、又都市の機園^ノに生活を依存する人
 々の通勤通学圏^ノ即ち都市依存圏として現
 われ^ノ片々。

生活の時間帯の秩序は毎日に週毎に月毎
 に反覆する業務の時間帯の上に、休養の時
 間の上に、給食又は決算の時間帯の上に、現わ
 れ^ノ片々。

以上三つの点が本書の中で取り扱われ^ノ居

の同題の強と總てである。従来の都市社会学者の研究の中には以上の諸点の中の大部分は全然問題にあらざれど片取へ。以上の諸点は都市生活の根本的な意味と構造に關すものである。次以上三點に關すは著者の所説を今少しく立ち入つて説明す。

第一の点、即ち都市は文化的社会的交流の結節的機關をその中に宿して居る点において、村落と異ると云ふ点について、著者は次の様

に述べた所よ。

村落と都市の 丁史は人類の文化の 丁史と同
 様に古いと云ふ事が出来ると共に、人類のあ
 りの文化は村落や都市の中に成長して来た
 と云ふ事は出来ぬ。

都市が村落の地盤の上に成り立ち成長して
 行く事は、都市化の程々の様子の段階によ
 り現在の村落を觀察する事によつて察知し得ると
 共に、都市の現れに因り、丁史家の研究によ
 り都市が村落の上に現れ成長した事は疑い得

ない事実である。村落が都市に発展してゆく
 過程の段階を示して居る村落を吾人は現在無
 数に観察する事が出来る。かくの如く観察に
 よつて我々が知り得る事は、村落の内に社会
 的文化的結節の機關を究せしその種類を考へ
 数を増やす事によつて漸次その都市性を増すと
 する事である。(結節的機關の存在しない都市
 は全く考へる事は出来ない。)

(結節的機關とは、是れを通じて人が社会的文
 化的交流を営んで居るべきところである。物資や技
 術の

術その他の文化が國民社會内に万遍なく行き
 及ぶ事の本末は機關である。文化的社會的交
 流の結節的機關としては次の九種が認められ
 る。(一) 販賣機關、(二) 技術機關、(三) 交通機關、
 (四) 通信機關、(五) 行政機關、(六) 治安機關、(七) 教
 育機關、(八) 信仰機關、(九) 娯樂機關。

今日都市と呼ばれ、居るものには右の九種
 の結節的機關は皆集まり、二居る事と著者は認
 めた。九種の結節的機關が未だ揃って居る
 い都市段階のものがあると共に、その各

こ
か多数となり且つ規模が大きくなるとこれ
都市は都市性を増して行く。

（都市と村落は共に人同様に生活の地盤を占
て居るのである。他のあらゆる集團は此二

つ~~中集團~~に根をおろして居るのであるから

この二つは人同様に生活における基本的社会と

云ふ可きである。著者はこの二つを夏落社会

と呼び、共同防衛の機能と生活協力の機能が夏

落社会の基本的機能と認め居る。その上に

かいは村落も都市も同様であるが、都市に

はその上に社会的交流競争の機能が加はつて
所よ

功二の点即ち都市の社会構造についてば、
著者は正常人の日常生活の理論を適用す
事によつてこれを確認して居る。

多数の人は必然な生活をして居る都市に於
いては、その基本的な社会生活の構造は、異
常人にや異常な生活の現象形態に混濁さるゝ正
しい理解をさまたげらるゝ所よ。故に甚だ復
雑にして巨大な都市と云ふ社会的複合体の理

解はそれ等の混雑物を一應除去して理解する
事が必要である。

正常人の正常生活とは、人は学令に達する
までは父母の庇蔭の下に父母の世帯で生活
し、学令に達しては学校に通学し、学校を卒業
しては生業に従事し、老令に達して生業に
耐え得なくなれば、子弟の庇蔭の下に子弟の
世帯で又は公共の庇蔭の下に養老院で生活し
て死に至る。これが正常人の正常生活であ
るが、幼にして父母の庇蔭の下に父母の世帯に

生活して居ないもの、学令に背して通学しないもの、学校を卒業して失業にかないもの、老朽して子等や公共の庇護の必要にないもの、これ等は皆異常人口である。正常人口は異常人口の別なく、正常生活を営んで居ない場合は比喩的異常生活である。

異常人口又は異常生活のみによつては、都市の生活は存続し得ない事は明白であるから、都市の基本的な社屋構造は正常人口の正常生活を基本として居る事は當然と考へらる。

職業の種類により地位により多少の時差的
 なすればありとしても、都市の正常な成年者
 連の生活が世帯での生活と職場での生活が日
 々の生活の本流をなして居る事には變りはない。
 又世帯での生活と職場での生活を本流と
 する生活は、そのまゝ、如何に永く反覆しても
 都市生活を存続し得る。社会生活の構造である
 事も明らかである。

又、都市に於ける一世帯の生活時子を制限
 し、片よものとしてば、その世帯内の誰かが

所屬して居る職場の時と、学校の時と以外の
 ものは殆どない。職場と学校の様に都市住民の
 生活を拘束して居る力は外には殆どない事を
 意味する。職場と学校のみが都市住民の日々
 の生活の型を律して居る力を此で認むるので、そ
 の他の集団は所謂余暇的集団として存し、拘束
 力もそれ程強くないのでは無い事を意味する。
 二水準の二つの集団は世帯と共に都市生活の
 基本的な支柱をなして居る事である。
 都市生活に見えぬ文化教養娯樂生活向上

其の爲め各種の集團は皆余暇集團と評ぶ可く、
しめて日々の生活に不可欠のこのではない。

著者はこれを生活拡充集團と名づけし序也。

行政的地方団体即ち地方自治体と生業團體と

は生活拡充集團の一様とし解し得るゆゑ也

よか、特殊の意義義と力をもち^{團體}としし著

者たる水を都市心ありの特殊団体としし取扱

つて居る。

第三の点即ち都市住民の其日々の生活の中

に示し居る規律性については、空間的は地域

の上へ現わし居る規律的・時局的連続の
 中に現わし居る規律的とかある。

地域の上へ現わし居る規律的については
 従来多くの都市社会学者が是を研究した。

著者が従来の都市社会学者と同一の問題を取
 扱つた居るのはこの問題のみである。此問題

については著者は若干の新しい見解を示して
 居る。自然都市の社会的統一性を破認し得る

唯一の根拠は彼が第一生活地区と名つけて居
 るものの連続的統一以外には無いと彼は云

過程

この片は、その第一生活地区は特定物次員に
すは新用機関の巻である。

けれども地域の規律性の問題に關してはこ
ゝてほこ水以上は述べない。徳が次に同様に

しゝ居る時々の規律性は社会科学の中での全
く新しいしい概念であるから説明しなげればなるぬするに多く

ことゝあつて居るからである。

職場毎に一日中の勤務の時、休息休業の時が

あり、一週り毎に休業の日、賃銀支拂の日など
の規定がある。その中の規定は毎日に週毎に正

及の甘いじふ

確に反覆して居るもの。学校に於ては
 週毎に又一学年毎に反覆して居る行動の時
 間的原則が定まつて居る。かくの如く規則正
 しく反覆する事を規定されて居る行動の中で
 最も嚴格に取り扱はれるのは勤務に關す
 るものである。勤務の時は一日の中の最も
 効果的な時が用いられる。娯樂や教養の爲に
 は余暇の時が与へられて居る。又である。批
 評人が体験的に勤務の時間的規定の拘束を受
 けないのは学令期以前の幼児と老朽して居る

老人~~と~~丈夫である。社_会構造に之れ等の人の生活には無関心である。

（人が体験的に是の周期的到来に強い関心を持つたのは決算の時と休業の時とである。給料支拂いの際は決算の時の一つの例であるが、日給制、週給制、月給制の別は人々の生活の型にも影響を及ぼす。又決算のものが大きな生活の波をつくつて居ることは色々の調査にも現われ居る。）一般に都市では農村に於けるより決算の周期が甚だしく短い。農村では収

獲か一年を周期とする場合が多いので、一年

回の獲り、決算の形が多い。要買による即決

ではなく、貸借の形をとるが多い。これは定

着的である。信義的である。威信的である事

に園子と山、の片々。都市には是れと全く対

照的である。予想される。農村と都市のかくの如

く、物物の相違は、根本的には知識者の社会と未知の人々の

社会との別、の別とよするに關係して片々と思われ。

反覆しなさい。時の秩序も有して片々である。その子

にフリーでは二、三の説明を、余程はなさい。
それが亦農村と都市の社会に
異った性格を有する